

ひろしま県民いきもの調査 ～ いきものログ講習会 ～

「冬の生きもの観察会 in 北広島町」報告

2025年1月18日（土）13:00～15:30



講師：原 竜也氏（北広島町環境生活課）
主催：広島県環境県民局 自然環境課

令和7年（2025年）1月18日、北広島町の「壬生城跡」で哺乳類や冬鳥を対象とした生きもの観察会を開催しました。「壬生城跡」は、北広島町千代田の市街地からほど近いところにある小さな山です。麓からの高低差は約90m、山麓から中腹にかけては雑木林がよく発達した里山的な樹林環境が広がり、頂上の壬生城本丸跡は眺めがすばらしく、北広島町の田園地帯を見渡すことができます。

ここでは、麓から山頂まで様々なルートの遊歩道が整備されています。普段は地元の人々の憩いの場や陸上競技に励む子供たちのトレーニングに使われていますが、今回初めて、生きもの観察会を開催することになりました。

当日は、広島市内から来られた方が多く、ご家族や友人同士など、子供から大人まで計13名にご参加いただきました。講師は、北広島町職員の方の原竜也氏。「西中国山地自然史研究会」に所属しておられ、広島県レッドデータブックの検討委員も歴任するなど、県内の野生動物や鳥類、両生類・爬虫類などに非常に詳しい専門家です。また、「壬生城跡」の山林の管理や遊歩道の整備に携わられている北広島町農林課の田辺康行氏も観察会にご同行いただきました。

観察会は、まず、「壬生城跡」の小山の中腹にある駐車場で全体スケジュールや注意事項の説明、講師の紹介などのオリエンテーションが行われたのち、講師から双眼鏡の使い方を解説していただきました。双眼鏡は事前に角度やピントを自分の眼に合わせておき、太陽に背を向けるように対象物を見ることが大切だそうで、皆さん、使い方を実習していました。続いて、スタッフから“ひろしま県民いきもの調査”と“いきものログ”について、内容の説明やスマートフォンへの登録方法などの説明がありました。



講師による双眼鏡の使い方説明



生きものログの説明

オリエンテーションが終わり、観察会スタートです。駐車場から車道を少し移動したところで、早速、野生動物の足跡が見つかりました。舗装された車道ですが、幸い残雪があり、ニホンザルの足跡が残っていました。続いて、車道から遊歩道に入っすぐ、今度はニホンジカの足跡がたくさんありました。ニホンジカは群れで動くことが多く、慣れると頭数や移動していった方向が分かるそうです。参加者の皆さんは、講師の解説を熱心に聞いていました。



ニホンザルの足跡



ニホンジカの足跡

遊歩道を進んでいくと、所々にチェックポイントが設けられていました。原講師が事前に会場を探索し、動物がよく現れそうな場所にセンサーカメラを設置。チェックポイントには QR コードが示された看板が立っています。

参加者各自がスマートフォンで QR コードを読み込むと、センサーカメラで撮影された野生動物の行動の動画がその場で見られる仕組みになっています。哺乳類などの野生動物は、昼間はなかなか見ることができませんが、講師の優れた取り組みによって貴重な動物の活動シーンを見ることができ、皆さん大変喜んでいました。



遊歩道でフィールドサインの解説



チェックポイントの看板 (QR コード付き)



センサーカメラ



QR コードを読み込んで野生動物の動画を視聴



センサーカメラ ニホンアナグマ



センサーカメラ キツネ

遊歩道をさらに登ると、頂上の壬生城本丸跡に到着しました。日当たりの良い天空の広場で、眼下には千代田地区の田園地帯が広がり、すばらしい眺めです。ここでは双眼鏡や望遠鏡を使い、まず、鳥を探してみました。遠くを飛ぶトビやヤマガラの鳴き声を確認することができましたが、講師によると鳥類は午前中の方がよく活動し、午後は少ないとのことで、残念ながらこの日は多くの種を見ることができませんでした。



頂上からの眺め



遠くを飛翔するトビ

頂上の広場には、高峰神社の社が建立されています。ここにもセンサーカメラが設置されており、撮影動画を覗くと、テンが神社の柱を一瞬で駆け上る様子が写っていました。餌を探しに来ているとのことで、垂直の柱を降りるときは、頭を下に向けて駆け降りる、糞が目立ったところにするなどの解説がありました。



高峰神社での解説



柱を駆け上るテン



柱にあったテンの爪痕



テンの糞

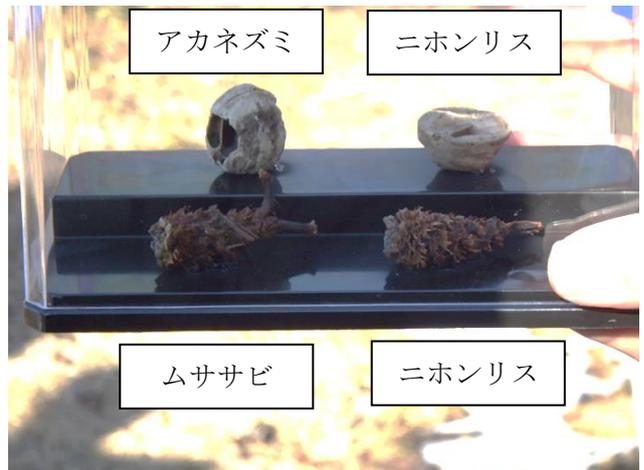
頂上でしばらく滞在したのち、下りのコースに入りました。アカマツの大木がたくさん生えています。ここで、原講師は動物の食べ跡標本をカゴから取り出しました。参加者の皆さんにぜひ見てもらおうと事前に準備されたそうです。

小型水槽の中に並べられていたのは、かじられて芯だけになった松ぼっくりとオニグルミの実が二つずつ。松ぼっくりは周りの種子を細かくきれいに食べているのがニホンリスで、粗く食べているのがムササビだそうです。また、オニグルミは実の真ん中で二つに割れているのがニホンリス、横がかじられて穴が開いているのがアカネズミなどのネズミ類との解説でした。ちなみにニホンリスは北広島町に生息しておらず、食べ跡の標本は原講師が鳥取県で採集したものだそうです。

参加者の皆さんは熱心に講師の話聞いたあと、標本をじっくり観察したり、写真を撮ったりして楽しんでいました。



食べ跡の観察



松ぼっくりとオニグルミの実の食べ跡

食べ跡標本のあとは、参加者による食べ跡探しです。松林の遊歩道を歩きながら地面を探すと、あちこちから「これかなー?」、「見つけたー!」、「よく見るとたくさんあるね!」といった声が聞こえてきます。たくさん見つかったのはムササビの食べ跡。「壬生城跡」の山林は、ムササビがよく利用する餌場になっているようです。



たくさんムササビの食べ跡



食べ跡、見つけた！

続いて松林のチェックポイントでは、地上 10mほどの高さに大きな巣箱がかかっています。原講師が事前にかけておいたもので、同じ高さの別の木にセンサーカメラも取り付けられています。早速皆さん QR コードを読み込んで動画を見ると、ムササビが巣箱を出入りする様子や巣材を運ぶ様子が写っていました。原講師によると、食べ跡が多いので巣箱をかけたら「もしかしたらムササビが入るかもしれない」と思われたそうです。そのおかげで大変貴重な活動の様子を参加者の皆さんが見ることができました。

原講師からは、ムササビの生態についても詳しく解説していただきました。巣材はスギの皮をよく使うこと、5~6か所巣があり、移動して使っていること、松ぼっくり以外に木の新芽や葉をよく食べること、葉を食べるときは前肢で葉を二つ折りにして食べるので、葉の真ん中に穴が開く、などなどです。

ときおりクイズを交えながらの解説を皆さん熱心に聞き、交代で望遠鏡をのぞいて、巣箱の様子や入り口に垂れ下がっている巣材などを観察しました。



巣箱の観察



ムササビの生態解説



巣箱を出入りするムササビ



巣材を運ぶムササビ

ムササビの観察が終わり、観察会も終盤。獣道の交差点のチェックポイントでは、動画にニホンザルが写っていました。動画をよく見ると、首に発信機が取り付けられています。北広島町農林課の田辺氏によると、町内でサルの農作物被害が出ており、その対策を検討するため、サルの行動圏の把握を行っているとのこと。発信機による追跡の結果、山奥には行かない、移動するときは山際をよく歩くななどの特徴が分かってきたそうで、サルは芋や玉ねぎが好きで、罠にバナナを置いても見向きもしない、といった面白い話も紹介していただきました。



遊歩道を移動するニホンザル



閉会式

約 2 時間のトレッキングを終え、中腹の駐車場に戻ってきました。冬の生きもの観察会の終了です。最後に参加された方々から、「いっぱい見られてよかった!」、「クイズが楽しかった!」、「動画がとてもよかった!」、「すばらしい準備をしていただき、ありがとうございます。」などの多くの感想をいただきました。北広島町の市街地からほど近い里山ですが、身近な山にも大変多くの野生動物の営みがあることを知り得るよい機会になったのではないのでしょうか。